

共創縄とびで学んだこと

小学校四年

私たち四年生は、運動会で共創縄とびをすることになりました。共創縄とびというのは、ペアやグループ、集団で縄とびの技を創り、心を一つにして、その技の成功をめざし、練習に取り組むものです。

はじめに、ペアで一緒にとぶ練習をしました。先生が「相手の動きをよく見て」と教えてくれました。私は相手の動きを見て、自分の動きを合わせようと思いました。友だちもそうしてくれたので、動きがそろって上手にとべるようになりました。

次に女子で、横一列に並び、一人の回し手が、縄を回しながら次々とんでいく一斉とびの練習が始まりました。私は、その回し手に立候補しました。最初は難しく、何度も失敗を繰り返しました。

でも、友だちは嫌な顔をしたり、私を責めたりもせず、みんなで練習を続けました。私も一生けん命に練習をしました。友だちが「みんなで声を出すといいのでは」と言ってくれました。そこで、みんな「はい、はい」とかけ声をかけ合いながらやって

みました。するとみんなの気持ちも動きも一つになったようで、成功しはじめました。失敗しても「大丈夫」「もう一回しよう」などみんなで声をかけ合うことで、あきらめずにがんばろうという勇気が出てきました。

運動会本番。成功するだろうか。ドキドキしました。でも、今までやってきたことを思い出し、友だちと心を一つに取り組みました。そして、何度か失敗したけれど、時間内に成功しました。うれしくてうれしくて、みんなで「やったー」と喜び合いました。

私は、共創縄とびをとおして、相手をよく見ること、相手のことを考えること、そして、はげます言葉をかけ合うことの大切さを学びました。これから何か難しいことに出会ったとき、まわりをよく見て、友だちと声をかけ合いながら取り組んでいきたいと思いました。